

令和5(2023)年度 佐野高等学校・附属中学校 学校自己評価表(1/6)
(学校経営)

学校運営方針	本年度の努力目標
高い品性、健やかな心身、豊かな教養と人間性、行動力を備えた、グローバル社会において、リーダーとしてたくましく生き抜くことができる志の高い人材を育成する。 ○品位と誇りをもった心身ともに「たくましい」生徒を育成する。 ○中高一貫教育校の強みを活かし、魅力ある学校作りに邁進し、唯一無二の存在感のある県南地区の中核的な進学校にする。 ○生徒一人一人の自ら意欲的に学ぶとする意欲を高めつつ、論理的・批判的に思考する能力を育むことができるよう、日々の授業の改善に組織的に取り組む。 ○望ましい集団づくりに努め、集団の良さを生かしながら、活力あふれる教育活動を実践し、生徒が協働して課題を解決できる力の育成に努める。 ○地域等と幅広く連携を図りながら、「Sanoグローバル構想」を全校体制で推進し、生徒、保護者、教員、地域等にとって、「幸せな学校」づくりを推進する。	①「Sanoグローバル構想」の組織的・計画的な実践をする。 ②「教育DX(デジタルトランスフォーメーション:デジタル改革)」の推進研究 ③学校不適應などの生徒等への組織的な対応をする。 ④キャリア教育の充実をする。 ⑤広報活動の持続的な取組を目指す。

〈各部・各学年〉(評価点)4=よくできた 3=おおむねできた 2=あまりできなかった 1=できなかった (総合評価)A=4~3.5 B=3.4~2.5 C=2.4~1.5 D=1.4以下

	本年度の努力目標	重点項目	具体的方策	評価点	担当部署	成果と課題
教務部	① 学校行事の円滑な運営	① P D C Aサイクルの定着	① 反省・改善意見等をまとめて次年度の参考にする。	3	B	コロナ5類移行にともなって教務主催の各種行事も見直しを図られたが、コロナ禍で生まれた合理化を維持しつつ大過無く運営ができた。反省や改善意見の伝達を確実にし、次年度に繋げたい。
	② 統合型校務支援システムの効果的な運用	② 各種帳票の出力を行い、校務負担の軽減化を図る	② マニュアル等を作成し、職員が活用しやすい環境をつくる。	3		出欠確認や成績処理などの他、指導要録や調査書の作成上、その有効性は概ね肯定的に受け容れられている。利用をさらに促進すべく、より簡便なガイドづくりの整備を模索したい。
	③ 校内施設設備の整備・活用	③ 教職員と生徒が過ごしやすい環境づくりに努める	③ 職員室内の設備の充実や校内の施設の有効活用。	3		職員室の席配置を学年ごとに改めたことにより、学年・担任間の連携がよりスムーズになった。整理整頓やゴミの分別に関しては職員間で温度差があるので、意識向上に繋がるよう取り組みたい。
	④ ホームページ内容の充実	④ 部活動の迅速なホームページ上への掲載	④ 部活動の記事内容を充実させる。	3		先生方の任意に委ねていた側面があり、特に部活動の活動記録に関しては温度差が生じた。促しを強化するのみならず、生徒(広報委員)の積極的な活用を含めて、次年度はその充実を図りたい。
	⑤ 消耗品の省資源化及び節約を図る	⑤ 紙の節約と文房具類のリユースに取り組む	⑤ 職員会議資料等のPDF化を図る。	3		朝の連絡事項等をTeamsで共有する仕組みを導入したことで、さらなる省資源化に繋がった。一方で紙媒体の利便性も指摘されているので、バランスにも留意しつつ全体的な省エネ化を促進したい。
進路指導部	① 豊かな教養と進取の気性に富み、真理を探究できる生徒の育成	① 生徒が、興味関心を高め、主体的に行動を起こせるように情報提供を行う	① オープンキャンパス参加の指導。	3	B	1泊で東北大OCに参加できたことにより、卒業生との交流会を開くことができた。次年度、さらに充実させたい。
			② 卒業生による大学説明会。	4		8/18に、大学1年生から、修士1年生まで、幅広い学年層の卒業生が60名程が来校し、在校生と交流を行った。在校生の参加者が少なく、100名程であった。次年度はさらなる参加を促したい。
			③ 進路資料室の整備。	2		総合型選抜や、学校推薦型選抜の指導場所などに活用した。資料閲覧に来る生徒は少なく、次年度はもう少し充実させたい。
			④ 探究学習とシンカ宣言への指導。	3		2年生は探究活動の延長として「シンカ宣言」をまとめた。3年生は「シンカ宣言」をもとに志望大学を検討することができた。次年度は内容の充実を図りたい。
	② 高い品性と共生の心を備え、進んで社会に貢献できる生徒の育成	② 人との信頼関係の中で、充実した学習が行えるような環境整備を行う。	⑤ LHRの時間等を使ったグループ別進路研究。	3		2、3年とも志望学部、学科ごとのグループワークを行うことができた。次年度は、さらに内容を充実させたい。
			⑥ 中高合同縦割り進路学習。	2		大学が内定した高校3年生が、中学生の教室に向向く形での、チューター制中高間の活動が行えた。次年度はさらに交流を増やしたい。
			⑦ 面談の充実。(志望校検討会、入試結果検討会)(生徒と担任との信頼関係の構築)	4		志望校検討会では、事前にクラス担当者を決めて、生徒の志望理由書や受験計画書をもとに事前検討を行った。その結果、情報も充実し、会議も効率よく進行できた。
			⑧ 総合・学校推薦型選抜で受験する生徒への指導。	3		担当職員を割り当てたことにより、一人一人へのサポートが充実した。次年度は、一般で受験する人へのサポートも充実させたい。
	③ 健やかな精神と身体を持ち、自己の未来を拓ける生徒の育成(自立への支援)	③ 自立した学習者になれるような支援を行う。	⑨ 保護者への進路情報提供。	2		各学年会保護者会での進路講演会や、配布資料は各講師のおかげで充実した。次年度は、その他の機会での情報提供も充実させたい。
			⑩ 卒業生による受験報告会。	3		3月中旬に実施し、受験を終えたばかりの卒業生から各志望分野ごとに話が聞けて在校生にとって大変有益である。
			⑪ 共通テスト・個別試験結果の分析と指導法の改善。	2		昨年度の入試分析に関して、各教科とも次年度の初めに行った。これからも継続・充実させたい。

令和5(2023)年度 佐野高等学校・附属中学校 学校自己評価表(2/6)
(各部・各学年) (評価点) 4＝よくできた 3＝おおむねできた 2＝あまりできなかった 1＝できなかった (総合評価) A＝4～3.5 B＝3.4～2.5 C＝2.4～1.5 D＝1.4以下

本年度の努力目標		重点項目	具体的方策		評価点	総合評価	成果と課題
学習指導部	①「考える・教える・楽しい」授業の研究	① 指導研究	①	教科主任会や教科会の実施。	4	B	毎月持てたことに意味があった。次年度も継続したい。1回の会議時間は45分を守る。5教科以外の教科主任・学年主任も基本、参加してもらう方がよい。授業やテストのあり方なども話題にする。
			②	中高・教科を超えた授業研究・授業の互見。	2		DXの発表、中学の研究授業に乗った部分はありますが、互見週間もあまり活発とは言えなかった。次年度は教科会を時間割に入れてもらう。
			③	先進校視察。	2		教育DX、STEAM教育の視察やSTEAM教育の発表会など、先進的な事例の収集のために必要なことであるので、ある程度計画を立てたうえで実施したい。
			④	Find!アクティブラーナーの活用。	2		一度、会議で見たのみ。使うと良いので使う場面を作る（毎年、計画だけは立てているが）。
		② 評価と指導の一体化	⑤	主体性の評価方法の検討。	2		そこにはあまり触れられなかった。次年度の課題の一つ。
			⑥	シラバス、学習計画表の再考。	2		シラバスと学習の手引きの整備は一体で考えていきたい。シラバスは現状のまま。学習計画表はなくす方向で考えている。
	②「一生役立つ」学び方を指導する・考えさせる	③ 学習習慣の確立（量）	⑦	自ら計画的に取り組めるようになる方策を検討する。	2		「学習の手引き」を作成すること、手帳を広く導入する事など確認ができた。手引きは次年度でおおよその完成を目指し、その活用を検討したい。
		④ 学習方法を学ばせる（質）	⑧	「宿題をなくす」のような方法の検討する。	3		話題にし、検討したが、習熟度の差を考慮した出し方の工夫という形で確認した。次年度も再検討したい。長期休暇は宿題は自分で決めるというスタイルを再提案したい。
		⑤ 成績格差が大きいことへの対応	⑨	授業スタイルやICT活用の工夫⇒授業研究・情報交換。（教科会など）	2		教科会にて少し話題にした。格差が大きいという現状が決して悪いわけではないかもしれない。生徒がいきいきと学べていれば良い。次年度は習熟上位者課外、下位者に対する数学の学びの場の設定などを行う予定。
		⑥ 成績下位者のための取り組み	⑩	特別指導の改良。	3		指導の面でも評価の面でも一定の意味があるので基本的には今年度に近い方で実施したい。ただ、もう少しフレキシブルに。ひと教科6時間は長いかもしれない。
	③ ICTの活用	⑦ ICTの授業への活用	⑪	具体的な活用事例の共有⇒授業研究・情報交換（教科会など）、教育DX。	3		DXの研修、発表を通して最低限の情報共有はできた。教科会・職員会議でさらに共有をしたい。また技術的な研修や、教科会で話題にすると良い。
	④ 図書館利用	⑧ すてきな図書館空間の創出	⑫	学習環境としての整備。	4		図書館における細かい整備、工夫がいろいろとなされた。残念ながら生徒の足はあまり向かない。映像コンテンツを増やす。学習の場として、居場所としてもっと利用促進の手立てを考えたい。
			⑬	居場所として。（居場所カフェ）	4		理想の居場所カフェの前段としてのイベントは大成功している。実際の居場所として機能することを目指す。
	⑤「答えのない」学び＝探究学習の充実	⑨ SG活動の体系化	⑭	マニュアル化の一層の推進。	3		例年通り、という流れができつつある。次年度はその部分を生かしながらさらなる改善を。ビジネスモデルを考えるような研究に取り組みせたい。
			⑮	指導力の向上＝職員研修の実施。	2		タイガーモブの講演をそれに位置付けたかったが、うまくいかなかった。ただ、宇大の大庭先生の講演など、生徒と一緒に聞くことで先生方の勉強にもなった。次年度はきちんとした学習の場を設ける。
		⑩ 外部との連携	⑯	外部から指導を受ける。（中間発表に指導を受ける）	4		中間発表27名、課題研究発表会19名が指導助言者として参加してくださった。次年度も継続したいが、少し工夫をしないと来る人は減るかもしれないし、もう一歩発展させていくことも検討したい。
			⑰	外部に開く。（教養講座・哲学カフェ・課題研究の発表）	4		SG教養講座の外部の参加者は15名。もう少し参加の範囲を広げたい。
			⑱	外部大会への発表。（マイブロプロジェクト・RING）	2		一部、紹介した生徒もいる。ただ、大会ではないが、発表の場はたくさんいただいた。応募できる大会を調べさせたい。こちらも調べたい。
		⑪ 学際的な発展	⑲	STEAM教育への広がり、研究、文章を書く機会を多く持つ。	3		ことあるごとにレポートを義務付けた。STEAM教育はある程度課題研究に内包されている気がする。R7年度の「総合的な探究の時間」の増単位に向けて学際的な内容の検討をしたい。文章はもっと意識的に書かせたい。
		⑫ 進路活動とつなげる	⑳	マナビジョンへの記録、シンカ宣言。	4		シンカ宣言につなげることができた。進路指導部との連携をさらに強化する。
	⑥ 異年齢との学び	⑬ 教え合い	㉑	数検を教え合いの機会として使う、哲学カフェ。	3		数学の教え合いの場を提供したが参加生徒は多くなかった。哲学カフェではよく話し合いがなされた。中3の秋以降、高3生との連携ができれば。また、高校生が本当の意味で中学生のチューターになれると良い。
	⑦「自ら学ぶ学び方」を身に付けた生徒の育成（中）	⑭ 家庭学習方法の指導	㉒	PDCAサイクルでの家庭学習方法の指導。	2		PDCAサイクルは意識できなかったものの、長期休業前や定期試験前に全生徒に向けて学習への意識付けを提示することができた。
	⑧ ICTの有効活用（中）	⑮ 一人一台パソコンやプロジェクター等のICT機器を使った授業研究	㉓	すべての教科で一人一台パソコンやプロジェクター等を効果的に使った授業実践を行う。	3		教育DX研究発表会や総教センター要請訪問に向けて、各教科実践を行った。また、次年度に向けてスタディサブリの導入から個に応じた学びを提供できるよう学習部で進めることができた。

令和5(2023)年度 佐野高等学校・附属中学校 学校自己評価表(3/6)
(各部・各学年) 4=よくできた 3=おおむねできた 2=あまりできなかった 1=できなかった (総合評価) A=4~3.5 B=3.4~2.5 C=2.4~1.5 D=1.4以下

本年度の努力目標		重点項目	具体的方策		評価点	総合評価	成果と課題
生徒指導部	① 自己指導能力の育成	① 基本的生活習慣の確立及び規範意識の育成	①	あいさつの励行。	3	B	・あいさつを返せない生徒が増えている傾向がある ・礼儀正しくあいさつを返す生徒にも、もう少し元気さやほつらつさがほしい
			②	時間厳守の意識向上。	3		・授業前準備や教室移動は習慣として身に付いている ・委員会や係活動等の集まりについても時間どおり集合できている
			③	遅刻削減。	3		・意識づけはできているが生徒同士が助け合えるといい ・決まった生徒が遅刻する。対策が必要 ・「8:30から遅刻」と統一したらよいのでは
		② 自立に向けた指導・援助	④	自己の目標に向かい積極的に行動しようとする態度の育成。	3		・目標が具体的な生徒は行動がしっかりしていた
			⑤	望ましい行動選択や場面に応じた行動選択及び意思決定。	2		・大部分の生徒が、その場に応じた判断や対応ができている
	② 交通安全意識の高揚	③ 交通ルール遵守と交通マナーの向上	⑥	危険予測・危険回避意識の向上。	2		・保健(中2)で徹底指導をしたが「これぐらいは」という気持ちが課題 ・ヘルメット着用率を高めたい
	③ 「心の教育」の推進	④ 豊かな人間性の育成	⑦	他人を思いやれる心の育成。	4		・生徒が多様化するなか、生徒同士で多様性を認め合う意識が醸成できている
	④ 教職員(生徒)の危機管理意識の高揚	⑤ 防犯意識の向上	⑨	貴重品の管理の徹底。	2		・生徒指導や各学年から出た情報に留意し指導した ・丁寧に指導している
		危機管理マニュアル共通理解の徹底	⑩	危機発生時の円滑な対応。	3		・高校生が体育館に私物を置くので場所を部活ごとに決めてほしい
特別活動部	⑤ 開発的教育相談	⑥ 積極的な教育相談の実践	⑪	教職員が生徒の情報を確認・共有できる体制を整え、学年・学校職員が、様々な場面で一人ひとりの生徒に関わっていく。	3	B	・連携が取れていた。ケガの対応は保健室・教務とうまくできた ・発見も対応も早期にできている
	⑥ 予防的教育相談	⑦ 生徒の悩みや問題の早期発見・早期対応	⑫	Q-U検査等を有効に活用し、生徒の抱えている問題の早期発見、早期対応に努める。	3		・学年では情報共有されているが知らなかった先生もいた。共有方法の統一をしたほうがいい ・早期対応はうまくいくケースが多い
	⑦ 治療的教育相談	⑧ スクールカウンセラー(SC)及びスクールソーシャルワーカー(SSW)の効果的活用	⑬	担任・教育相談部・SC、SSWの連携を強化し、学校としてサポートできることを検討、実践する。	3		・QU、いじめアンケートなど定期的対策はできていた ・検査をもとに係から特定生徒にアプローチしてもらうと担任は助かる
			⑭	スクールカウンセラーによる、職員への講話等を実践する。(事例検討を含む)	1		・外部との連携もあるが担任の負担が大きい。支援体制の充実が課題 ・SCにつなげることができている ・特別支援教育的支援が増えることが予想されSSWや特別支援学校からの派遣等も前向きに検討すべき
							・今年度はなかった。ぜひ実施してほしい(質疑の時間も)
	① 中高合同行事の活動内容の連携と、指導内容の一貫性を図れるようにする	① 中高の連携体制を強化し、行事(旭城祭など)を企画運営する	①	中高生徒会役員を中心に、互いに意見交換をし、中高で一貫性のある活動ができる場面や時間を調整する。	3		・中高合同行事に関しては連携を図れる部分もあった。職員も含め、中高間での情報共有を密にすることでより一貫性のある活動につながると考えられる。中高生徒会役員・担当職員での打ち合わせ時間が持てるとうい。
		② 学校祭クラス企画の充実をはかる	②	学校祭のクラス企画、学年企画の充実を図る。	4		一般公開も行われ、制限も撤廃されたことで各企画も充実し、活気あふれる学校祭となった。その中で生徒任せにせず、係担当職員が責任をもって生徒と連携を取り進捗させていくことが大切であると認識した。また、金銭の扱いについても銀行手数料の変化を踏まえた管理体制等について対応を、検討する必要がある。
		③ 各種委員会の自主的な活動を促進する	③	自主的な活動を促し、中高でともに活動できるよう内容を検討していく。	3		中高での委員会活動実施には至っていないところが多い。まず中高での委員会を統一すること、活動日を設け、活動することが必要である。今後実現に向けて動いて行く予定である。
	② 部活動の短時間で効率的な活動の充実に努め、参加の促進を図り、自主的かつ意欲的な活動を目指す	④ 中高の連携体制を構築し、生涯を見据えた部活動の継続を推進する	④	部員を中心に据え、顧問と連携をとり活動内容等を作成・活動し、高校生が中学生を指導する場を設けることを目指す。	3		部員の主体的活動は行えている部が多いが、中高合同での活動はまだ不十分であると言わざるを得ない。真のリーダーを育成するためにも校種を超え、互いに学びあえる機会を作る必要性を各部顧問に対し呼びかけていく。
		⑤ 各部の活動時間の厳守	⑤	各HR・各部活動での指導の徹底。	3		内規として定めているが、指導内容や大会前などでずれ込んでしまう時期があるため、機会を設け、活動時間については周知していきたい。
	③ 他者と協働して学級・HR活動を行うことでより良い人間関係の構築と所属意識の高まりを目指す	⑥ 部活動の活動場所の調整と各部による自主的で衛生的な部室等管理を指導する	⑥	共同利用施設を管理することの重要性を説明するとともに、定期的に点検を行う。	3		施設忘れが前期に目立った。部員も含め、物品管理や施設などの意識をたかめるように各部で折に触れ指導をしていく。
		⑦ LHRや学活の時間での学級活動の充実をはかる	⑦	HRでの役割を自覚させ、学級活動の中でそれに沿った職責を果たせるよう取り組ませる。	4		役割を自覚し、職責を果たす生徒は多く見受けられる。しかし、特に高校で委員会により活動量が偏る傾向が見られるため、中高で連携し、継続的な活動になるよう再編していく。

令和5(2023)年度 佐野高等学校・附属中学校 学校自己評価表(4/6)

(各部・各学年) (評価点) 4＝よくできた 3＝おおむねできた 2＝あまりできなかった 1＝できなかった (総合評価) A＝4～3.5 B＝3.4～2.5 C＝2.4～1.5 D＝1.4以下

本年度の努力目標		重点項目	具体的方策		評価点	総合評価	成果と課題
健康指導部	① 学校管理下における事故、災害の防止に努める	① 学校行事における安全管理を徹底する	① 事前健康診断、個別指導の徹底、事故防止に努める。 学校保健委員会を年2回開催する。	4	A		養護教諭と学級担任の連携を密にして事前の健康診断、健康相談の充実をはかり、事故防止に取り組んだ。マラソン大会や運動会前は、行事に向けて気を付けることを体育科と連携して発信できたので大変良かった。現場の安全管理面では事務の動きが早くとても助かった。
				4			より実践的な避難訓練とするために、防火扉を閉めた避難も経験できるようにするとよいのではないかと。
		② 防災意識を高める	② 防火防災、土砂洪水災害避難訓練および防災講話の実施。	3			マラソン・ウォーキング大会では警察、関係諸機関との連絡ができ、生徒の安全に配慮した大会運営ができた。しかし、中学では年々不登校が増え、その中に学校行事であれば参加したいと思っている生徒がいるため、その進め方に疑問の声が出た。中学では体育的行事ではない開催も意見として出ている。
				4			教職員、部活動代表生徒60名以上が参加し、充実した講習会となった。中高の生徒が一次救命処置を経験し、いざという時に人命を救助するための術を身に付けておくことが重要である。中学生の参加が多く、質問も活発に出て充実していた。より多くの生徒を参加させたい。
	② 自己の健康管理能力の育成する	④ 望ましい生活習慣の確立と健康の保持増進の意識を高める	⑤ 保護者への啓発。(資料の提供) 保健だよりを発行する。 授業中の怪我予防対策に努める。	3			保健だよりを発行、季節や行事に沿った便りで分かりやすい内容であった。紙の節約といわれている中、保健だよりの発行に後ろめたさがある。高校では4月の保健行事関連しか出さず、クラス掲示にしていた。
				3			保健室来室時、個別での健康指導を実施することができた。メンタルケアを求めるケースもあり、今後の課題である。
		⑤ 感染症対策	⑦ 感染拡大防止対策の徹底(手洗い、うがい、教室の換気)を実施する。	3			昼休みの放送で随時呼びかけている。5月に新型コロナウイルスが5類となり、新たな対策を行う中、やり過ぎないことを促すことができた。マスクの着用、手洗い、換気、一人一人が気を付けて過ごしている。
				4			検診結果の事後指導は充分に行うことができ、協力体制も円滑に機能、充実した取り組みができた。
		⑤ 健康診断結果の適切な事後指導と自己の運動能力の把握と体力の向上をはかる	⑧ 各種検診結果の適切な事後指導時の協力体制の整備と短縮を図る。	4			Sano Green Eggsがスタートした。放課後、体を動かしたい生徒を中心に、コロナ禍で低下した体力を上げる。強制せず、やりたい人が参加できる活動で今後の成果が楽しみである。昼休み、多くの生徒が体育館・グラウンドでの活動していて大変良いことだが、道具の片付け・破損の報告などない等が課題である。
				4			
	③ 生命の尊重と性に関する諸問題の解決能力を育成する	⑦ 正しい性知識の習得をさせる	⑩ 性教育講座を実施する。	4			今年度も助産師の講話を実施。充実した内容で継続していきたい。高校では7限目だけでなく、時間が足りない。もう少し時間確保したいところである。
				3			理解を深めるために、広い意味で性について進めたい。ハラスメント、犯罪だけでなく、家庭・人権・精神にも触れていきたい。調べ学習では、視聴覚教材を利用するグループが増えた。
	④ 職員の健康の保持増進を促すとともに適切な健康管理につとめる	⑧ 健康管理医との連携を十分に行う(年12回定期巡視、全職員対象)	⑫ 安全衛生委員会を定期的に開催する。 生活習慣病予防の指導を充実させる。	3			どのようにしたら、教職員が健康について考えたり、受診の動機につながりやすくなるか次年度の課題。精密検査受診の職専免が取りやすい雰囲気は良かった。
				3			インフルエンザ感染、新型コロナウイルスに感染する生徒・職員が多かった。学級閉鎖が複数出てしまったが、ほぼ同時期で、その時期だけで済み、良い判断だったと思う。その後、高3年については各クラスにエアドックを設置して感染対策を強化した。
	⑤ 清掃時の服装の徹底(特に女子)	⑨ スカートではなく、体育着等ズボンでの清掃	⑭ 担当顧問による声かけ、放送での呼びかけを行う。	4			今年度、体育着更衣して清掃する姿が増えた。衛生面からトイレ清掃はスラックスの生徒も着替えさせたい。今後指導と啓発が必要である。教員に指示されず自発的に清掃する姿が見られた。
	⑥ 日々の清掃活動を充実する			4			清掃が長期的にできない日程になる場合、教室だけでも、朝、簡単清掃があるとよい。
	⑦ 委員会活動の充実	⑪ 委員会を定期的に開催する。(中学生は、月1回清掃時間中に実施。) 清掃時に音楽を流し活動の促進を図る	⑯ 月1回の安全点検の実施とその結果をまとめ、積極的に清掃用具の補充と問題箇所等の改善につとめる。 特にゴミステーション当番、モップ交換の充実。	4			安全点検後の処理が早く、問題箇所等の改善が早期に解消した。また、清掃用具の補充、整備も円滑に進めることができた。モップ交換はうまくいった。
				4			
渉外部	① 学校と家庭、地域との連携の強化	① 保護者と連携しながら、生徒の学校生活をよりよくできる本年度版PTA活動を模索する	① 保護者会等の学校を会場とした会合の際にクラス懇談を可能なかぎり実施する。	3	A		コロナ禍の制限が解除され、ほぼコロナ禍前と同様に行うことができた。PTA総会も体育館にて行うことができた。
				4			各支部会を合同形式で田沼中央公民館にて実施した。今後も本校にとってのPTA活動のあり方を検討していきたい。
	② 学校と地域、関係団体とのあり方	③ 同窓会、地域、諸団体との良好な関係を維持していく。	③ 役員の任期終了に伴う新体制づくりの準備を行う。	4			役員改選も無事に終り、各行事も円滑に進めることができた。
				3			今年度は、ほぼコロナ禍前の状態に戻り、関係団体と連携し、諸活動を行うことができた。

令和5(2023)年度 佐野高等学校・附属中学校 学校自己評価表(5/6)

(各部・各学年) (評価点) 4＝よくできた 3＝おおむねできた 2＝あまりできなかった 1＝できなかった (総合評価) A＝4～3.5 B＝3.4～2.5 C＝2.4～1.5 D＝1.4以下

	本年度の努力目標	重点項目	具体的方策	評価点	総合評価	成果と課題
中学1年	① 将来を見据え、ともに学び合うことができる生徒	① 6年間の学習習慣の基礎を構築し、積極的な学びの土台を育成する。	① 「授業と生徒指導は両輪」という考えの下、よりよい授業を展開し、教師と生徒がともに学び高め合う態度を育成する。	3	B	基本的な生活習慣の定着を図るために、学年集会、授業、学活等ことあるごとに指導を促し、一定数効果があつたと思う。校則改定後の指導方針については検討が必要。
			② 「主体的・対話的で深い学び」を意識し、思考力・判断力・表現力の向上を図るとともに個に応じた指導を意識する。	3		授業において、主体的・対話的な授業を心がけて実施できた。授業評価アンケートでも生徒の理解度は感じ取れた。
			③ 生徒の興味・関心を高めながら、特別活動や総合的な学習等の充実を図る。	3		総合的な学習の時間の定着を図るために、学年スタッフの協力の下、実施することができた。探究活動の基礎を定着できた。
			④ キャリア教育の充実を図り、将来を見据えた学びの基礎を固める。	2		伝統文化人に関くやソーシャルチェンジ講話などを通し、多くの人々から話を聞くことができた。学級活動の時間が思うように確保されていないために年間指導計画を実施できない状況は改善の必要がある。
	② 他と協働し、互いを尊重しながらよりよい集団を形成することができる生徒	② 6年間の学校生活を見据え、居がいのある学年、学級を形成する。	⑤ さまざまな活動を通して相互理解を深めるとともに人権意識の向上を図る。	3		年度初めの仲間作りから、コミュニケートキャンプなどの学年行事、合唱コンクール等の活動を通して、生徒相互の人間関係の構築ができた。ただし、人間関係スキルの低い生徒への手立てがさらに必要である。
			⑥ ソーシャルスキルトレーニングを用い、場に応じた行動を意識させる。	2		時間数が確保できなかったため、多くは実施できなかった。次年度は時間を確保して実施したい。
			⑦ 道徳科の授業の実践を通して心の成長と個性の伸長を図るとともに、教育相談を充実し、生徒理解を深める。	3		要請訪問の機会に学年で協力しながら授業を検討することができた。ファシリテーションを意識し、一人一台端末を活用しながら取り組むことができた。
	③ 決まりを守り、自己管理をきちんとできる生徒	③ 自ら基本的な生活習慣の向上に努め、けじめのある学校生活を送る。	⑧ 学校の指導方針をことあるごとに保護者に周知し、学校と保護者が同一歩調で指導できるよう促す。	3		年度初めにリモートによる学年保護者会を実施し、附属中のきまり等について説明することができた。また、学年保護者会を通してガイダンスを行うことで、先んじて保護者に周知できたことにより、予防的な生徒指導を実施することができた。
			⑨ あいさつ、返事、清掃活動などあたりまえのことをあたりまえにできるようにする。	3		あいさつ、返事等1年次の最初から徹底した指導を行ってきた。基本的な生活習慣の充実を意識した指導を次年度も引き続き行いたい。
中学2年	① 将来を見据え、ともに学び合うことができる生徒	① 学級活動や総合的な学習の時間、特別活動等を中心とした学年経営、学級経営の充実を図る。 ② 一人一人の良さに教師・生徒、相互に気づき、互いに認め合い、尊重できるような雰囲気醸成する。	① 総合的な学習の時間（課題研究や体験活動）を通して、生徒同士のつながりや、さまざまな人々との関わりの機会を設けるように心がける。	4	B	1学期のソーシャルチェンジ拡大版、2学期のコーポレートアクセスへの取り組みでグループ編成を工夫し、できるだけ多くの生徒同士のつながりが持てるようにして、成果がみられた。
			② 道徳科の授業の実践を通して、心の成長と個性の伸長を図る。	4		各担任が工夫を凝らして道徳の授業を行うとともに、日常生活でも心の成長を促すよう支援することができた。
	② 他と協働し、互いを尊重しながらよりよい集団を形成することができる生徒	③ 「学習と生徒指導は両輪」の考えの下、よりよい授業を展開し、教師と生徒がともに学び合う態度を育成する。 ④ 将来の進路を意識し、働くことの意義を考えさせながら、職業について深く探究させる。 ⑤ 基本的な生活習慣の確立。	③ 毎時間の授業の中で、基本的な生活習慣の育成を図りながら、学習習慣の定着を意識させる。	4		各教科担任が教科の特性を踏まえつつ授業を展開している。学習習慣は定着している。
			④ 進路について考える機会を学級活動等の機会に設け、将来についてより深く考えさせる。	3		他の活動に時間を費やし、進路に特化した学活の回数は少なかったが、担任から様々な機会を捉えて進路について話すことができた。
			⑤ あいさつ、返事、清掃等あたりまえのことができるようにする。	3		教師が率先して実践するように努めているが、なかなかできていない生徒も一部にみられる。
	③ きまりを守り、自己管理をきちんとできる生徒	⑥ 規範意識を高める。	⑥ 開発的な指導を心がけ、家庭との連絡を密にする。	3		家庭との連携、教員間の連携を密にして、チームで開発的な指導ができるように心がけた。必要に応じて家庭訪問等を実施することで、保護者と連携しながら、生徒指導を進めることができた。また外部機関（SSW等）と連携しながら生徒指導を行った。
	① 将来を見据え、ともに学び合うことができる生徒	① 中高6年間基盤となる居がいのある学年、学級を形成する。 ② 学習習慣の定着を図るとともに積極的な学びの土台を育成する。	① 総合的な学習の時間（課題研究や講話等）を通して、生徒同士のつながりや、さまざまな人々との関わりの機会を設けるように心がける。	3		スモールスタートの実践を通して、生徒同士のつながりが深めることができた。
			② 道徳科の授業の実践を通して心の成長と個性の伸長を図る。	3		各担任が工夫して道徳の授業を展開し、心の成長を促すよう支援することができた。
			③ 高校卒業後の進路について考える機会を学級活動等の機会に設け、進学への意識を高めながら入学できるように指導する。	3		学活やチューター制中高間活動を通して、進学への意識を高めることができた。
中学3年	② 他と協働し、互いを尊重しながらよりよい集団を形成することができる生徒	③ 自ら基本的な生活習慣の向上に努め、けじめのある学校生活を送る。 ④ 生徒を正しく理解し、予防的な生徒指導を心がける。	④ 毎時間の授業の中で、基本的な生活習慣の育成を図りながら、学習習慣の定着を意識させる。	3	B	1年次から継続して指導を行ってきた。まだ不十分な生徒もいるが、大部分の生徒は基本的な生活習慣、学習習慣を身につけることができた。
			⑤ あいさつ、返事、清掃等あたりまえのことができるようにする。	3		1年次から継続して指導を行ってきた。まだ不十分な生徒もいるが、大部分の生徒はあたりまえのことができるようになった。
	③ きまりを守り、自己管理をきちんとできる生徒	⑤ 家庭との連携を密にし、共に生徒を育てていく。	⑥ 開発的な指導を心がけ、家庭との連絡を密にする。	4		こまめに各担任が保護者と連絡を取り合い、連携しながら生徒指導を進めることができた。

令和5(2023)年度 佐野高等学校・附属中学校 学校自己評価表(6/6)
(各部・各学年) (評価点)4＝よくできた 3＝おおむねできた 2＝あまりできなかった 1＝できなかった (総合評価)A＝4～3.5 B＝3.4～2.5 C＝2.4～1.5 D＝1.4以下

	本年度の努力目標	重点項目	具体的方策	評価点	総合評価	成果と課題
高校1年	① 佐高生として望ましい基本的生活習慣を確立する	① 佐高生としてふさわしい立ち振る舞いができる	① 高校生らしい服装や生活態度を心掛けさせる	3	B	生活習慣や容儀面に指導が必要な生徒が一部見られた。そのため、3回、緊急の学年集会を行い指導を行ったが、改善につながらない生徒も見受けられた。学年団で、情報の共有と対策を話し合う必要がある。一方で、多くの生徒は誠実に生活しており、自己の倫理観を磨き上げ、自律した高校生になるよう継続して指導を行う。
	② 相互の関係を大切にして互いに切磋琢磨し、明るく活気に溢れ、感性豊かな人間形成に努める	② 学習意欲を高める生活習慣を確立させる	② 手帳を活用し、自己管理に向けた指導を行う	3		本年度の1年生には手帳を持たせることとした。一定数の生徒は手帳を利用し、自己管理の一助となったと考える。教員側も学習指導に向けた学習時間の可視化に効果があった。来年度も手帳の活用を行う予定なので、自律した学習者の広がりを目指し、継続して指導を行う。
	③ 教科外活動、学校行事等に積極的に参加し、調和のとれた人格の育成に努める	③ 基礎学力の定着・学校生活への意欲につながる能動的な活動を促す	③ 教科外活動、部活動、学校行事等への積極的な参加を促す	4		多くの生徒が部活動に参加し活動した。また、課題研究を通じて、多くの地域の大人と関わり合いをもち、自己有用感を高めることができた。来年度も学校内の中心学年として、継続的な活動を支援していく。
	④ 進路目標を明確にし、学力の向上に努める	④ 現在の自分、将来の自分について考えさせる	④ LHRで進路学習を進めるとともに、生徒を観察し面談を積極的に実施する	4		キャリアパスポートや種々の講座、課題研究などを通じて、キャリアや進路について自己理解を深めることができた。一部の生徒は教員に自主的に受験対策や進路の相談に来るなど意識の高さを感じられた。また、各クラスで定期的に面談を行い、生徒の状況の把握に努めた。生徒間の大きなトラブルはなく、クラス内の状況把握が的確にできたと考える。
高校2年	① 自らの進路について深く考える	① 自らの進路について、主体的に情報収集し、深く具体的に考えさせる	① 進路学習を継続して行い、オープンキャンバスや大学説明会等への参加を促す	3	B	大学調べや大学進学説明会、進路HRを通して、進路について深く考える様子が見られた。3学期に実施したグループ別大学調べは、多角的に考えるきっかけとなり、大変効果的だったと思う。一方、時間的制限もあり継続して進路HRの時間があまり取れなかったため、詳しく調べ、具体的に考えられている生徒とそうでない生徒がいた。次年度は、自らの進路について主体的に情報収集し、しっかりと考えて進路選択できるよう支援していきたい。
	② 自学自習力を確立する	② 主体的・意欲的に、粘り強く授業に取り組みせ、日ごろから計画的に継続して家庭学習に取り組ませる。	② 落ち着いた態度で集中して授業に取り組ませる	4		このクラスも落ち着いた態度で、集中して授業に取り組めていた。保健室の利用者も少なく、授業参加を重視した姿勢で取り組むことができた。次年度も、集中して授業に取り組ませたい。
			③ 自己分析させ、各々に合った学習に取り組むことを意識させる	3		標準的なレベルの課題と発展的なレベルの課題を選択させるなどして、自分に合った学び方を考えさせた。上位者は自分に合った学習を主体的に模索し、取り組めている。一方、家庭学習に取り組んでいる生徒とそうでない生徒の差が大きかった。今後、中下位者への一層の支援を学年で取り組んでいきたい。
	③ 規範意識を向上する	③ 高校生らしい服装、言葉遣いを心掛けさせ、周囲を思いやる行動を意識させる。	④ 集団生活を行う上で、周囲を思いやり、ルールの遵守を徹底させる。	3		他者のことを思いやる生徒が多いが、一部の生徒が自分さえよければよい、というような姿勢が見えた。修学旅行や集会等では、メリハリをつけた行動ができたが、服装頭髮の乱れが少しずつ出てきた。次年度は、最上級生としての自覚を持ち、一層周囲を思いやりながら行動させるよう促していきたい。
高校3年	① 中高一貫校の最高学年としての節度ある態度を育て、大人になることへの自覚を高めさせる。	① 後輩の模範となるような日頃の生活態度に気を配らせる	① 日々の授業、学校行事等すべてに意欲的に取り組ませる。	3	B	日頃の生活態度において、最高学年でありながら一部の生徒が教員から指導を受ける場面もあった。旭城大運動会や旭城祭、夏の野球の応援など学校行事には活発さと積極的に参加し、学校全体を盛り上げようとする意欲が感じられた。
	② 自律した学習者となる。	② 学ぶ目的を意識し、自学自習に取り組ませる	② PDCAサイクルを回す力を身につけさせる。生徒間で学び合う体制へのバックアップと環境づくりをする。	3		朝読の時間をフリーにすることで、各自に必要な学びの時間をとることができたが、有効に活用できたかどうかは課題として残った。教員の関わりがもう少しあっても良かったのかもしれない。様々な教科で学び合いの場面を取り入れた授業を展開しているため、疑問な点を生徒間で解決しようとする意識が育っている。推薦入試や総合型選抜で進路内定した生徒も、一般受験の生徒と共に学ぶ態度が継続していて良かった。
	③ シンカ宣言をもとにキャリアデザインを描き、その実現を目指す	④ 面接指導を充実させ個々の希望を十分に把握する	③ 進路指導部との連携を密にし、進路情報の提供と場の提供を適切に行う。自らのキャリアデザインを意識させ、最終的に本人が進路選択できるよう支援する。	4		進路指導部や正副担任の先生方とも連携をとりながら進路情報の提供や面接指導をきめ細かく行うことができた。早期に志望理由書の書き方に関する講演会を設定し、全員が一度志望理由書を書くことで各自が進路選択について自問自答できた。

学校関係者評価結果および今後の改善方策等 令和6年3月18日(月)実施

○「総合的な探究の時間」で取り組んでいる課題研究は目を見張るものがある。附属中でもソーシャルチェンジ、コーポレートアクセス、スモールスタートと新たな取組がなされ、生徒の課題研究のさらなる向上が期待できる。【学校評議員】 ○朝の連絡事項や欠席連絡などICTを活用して業務の効率化や省資源化を図ったり、職員室の座席のレイアウトを変更したりと先生方の工夫が自己評価から見て取れた。卒業式に臨席して吹奏楽部が校歌などを演奏している様子を見て、生徒の活気が感じられてとても感動した。【学校評議員】 ○附属中学校の入試では高倍率であるが、高校入試の倍率が低調なのが気になる。PTAとして本校の良さは理解しているが、外部には伝わっていないのではないかと。高校からの入学についての懸念点はどこなのか追及する必要があるのではないかと。【PTA代表】 ○生徒の多様化等にとまどい、生徒が過ごしやすいように校則等の見直しが行われたことはすばらしいが、服装・容儀面で「高校生らしくない学生」が見受けられる。交通マナー等も注意が必要な場面があるので指導を徹底してほしい。【PTA代表者】	○生徒の課題研究のスキルは年々向上しており、今後も継続して取り組んでいく。次年度は成果発表の時期を早めて、各種コンクールに応募し外部発信を行う。 ○業務の効率化のために積極的にICTを活用した。継続して工夫改善をしていくが、紙のほうよかったものもあり、有効性を鑑みながら今後も模索していく。 ○本校の特色や本校生の活躍を一日体験学習や中学校の学科説明会で説明をしているが、部活動や授業風景などHPの更新をこまめにする必要がある。 ○マイキンググループプロジェクトとして生徒の意見を取り入れながら決めた校則であるので再度生徒に投げかけけるなどして、指導の徹底と規範意識の醸成をはかりたい。
---	--